

## 城下町の歴史を発信 大和郡山城

奈良県北部の大和郡山市は金魚と城下町で知られている。郡山城は戦国時代の武将・筒井順慶が基礎を築いた。豊臣秀長や増田長盛らが手を加え、18世紀に柳沢吉里が甲府から転封されてからは、明治維新まで柳沢家が代々城主だった。築城当時は5層6階の天守を擁していたと伝えられる。近代になってからは県立郡山高校の校舎が二の丸敷地内に建設されたほか、戦後は本丸と毘沙門曲輪が県指定史跡になり、追手門、追手向櫓と追手東隅櫓が復元された。数年前には天守台の石垣解体修復工事が行われている。

令和3年3月には極楽橋が郡山城史跡・柳沢文庫保存会の手で復元された。極楽橋は江戸時代前期に、毘沙門曲輪から本丸への正式な出入口として本丸内堀に架けられた。このほか郡山高校の城内学舎跡用地が県から大和郡山市に売却され、市によって歴史公園として整備される計画が策定されつつあり、昔日の姿が次第によみがえりつつある。市民の城に対する関心も高く、ボランティアガイドとして多くの市民が観光案内に従事しており、9月からは3年に一度の養成講座が開かれている。

郡山の特色は、城下町の区割りの街並みがほぼそのまま残っており、かつての姿をとどめていること。「大和郡山は城下町の風情が色濃く残っています。城跡は極楽橋が再建され、城内学舎跡用地が歴史公園として整備される計画も策定されていますので、これからの郡山城跡もお楽しみいただければと思います」と、大和郡山市観光協会の吉本美雄事務局長は話している。

大和郡山市はこれまで「お城まつり」や「全国金魚すくい選手権大会」など、お城と金魚を観光の軸にしてきた。コロナ禍でこれらのイベントは中止になっているが、アフターコロナに向けて、整備されつつある郡山城跡を核としてその歴史を全国に発信しようとしている。

奈良新聞社 企画部事業課 松本裕行



3月に復元された極楽橋  
(写真は一般社団法人・大和郡山市観光協会提供)



ドローンが捉えた大和郡山城  
(写真は一般社団法人・大和郡山市観光協会提供)